



# わくわく倶楽部

江口グループ

第155号

令和2年6月発行



## 嫌なことがあったら、 「これはいいことが起きる前兆だ」と思い込む。

江口グループ 代表取締役社長 江口 充



み

なさんこんにちは！いつも江口グループわくわく倶楽部のニュースレターを読んでいただきありがとうございます！今月からしばらく紙面での発行がなくなりパソコン上での配信となりました。コロナウイルスの影響で業務体制を見直し、在宅勤務などを行って、出勤者数を減らしています。そのためにニュースレターの発送作業をすることが難しくなり、このような形でニュースレターをご覧いただくこととなりました。しばらくご不便をおかけしますが、また皆さんの元へニュースレターを届けられる様に早く新型コロナウイルスが終息することを願っています。

志

がないやすひろ

賀内泰弘さんの『ポジティブ練習帳』という本を読みました。世の中暗いニュースばかりが多く流れ、不安に思う人も少なくありません。少しでも希望を持ってポジティブになればいいなと思います。今は大変かもしれませんが、必ずいいことが来ます。希望を持ってみんなが優しい気持ちで頑張ればいいなとこの本を読んで思いました。

人

生なんて、「つらいこと」「嫌なこと」「悪いこと」ばかり...ではありません。「悪いこと」ばかりだったら、気が狂ってしまいます。でも、なぜか、「いいこと」はすぐに忘れてしまうのに、「悪いこと」ばかりが強く印象に残ってひきずってしまうのです。これは、人間の遺伝子、つまりDNAがそうさせているのです。一説では、人のすべての行動はDNAに左右されていると言われています。それは、子孫を残すためです。ウィルスや菌、天敵となる動物から身を守るための本能的な働きなのです。

なぜ、「悪いこと」ばかりが心に残ってしまうのか。それが、人間にとって、プラスのことなのか。それは、DNAが「同じようなことがあったら注意しなさい」と言うからに他なりません。例えば、一度、火傷をした人は、灯を見るだけで敏感になります。「かわいいな」と思って近づいた犬に手を噛まれる。もうその人は、犬を見た

けで逃げようとするでしょう。防衛本能ですね。肉体的なことだけでなく、精神的なダメージにおいても、DNAが「忘れないように」とサインを送ってくれているのです。だから、生きることはつらく苦しいわけです。

でも、大丈夫。忘れてしまいがちですが、「いいこと」も間違いなく経験しているのです。そして、「悪いこと」は続かない。また、一見「悪いこと」と思えることも、後で考えたら、「いいこと」に結びついていたということもあります。

例えば、今の勤め先で働いているのは、別の会社の入社試験で落ちてしまった「おかげ」です。その「おかげ」で、今の職場で恋愛して結婚できた。つまり、「過去」の「悪いこと」は、「現在」の「いいこと」と連なっていて、結びついているのです。もし、「悪いこと」が起きたら、すぐさま「いいこと」を思い浮かべて打ち消してください。「悪いこと」が起きたら、「これはいいことが起きる前兆だ」と思い込むのです。

イ

ギリスの名宰相チャーチルは「悲観論者はチャンスの中に困難を見るが、楽観論者は困難の中にチャンスを見る」と言いました。そして、「困難の中にはチャンスが隠されている」と言ったのはアインシュタインです。我々は、困難のさなかにいるときは、その困難なことへの対処で手いっぱいになります。しかし本当は、その困難が始まったときは、すでにその中にチャンスが埋め込まれています。

それは、「幸運は不運の顔をしてあらわれる」ということです。その困難や不運を乗り越えれば、次には必ず幸運やチャンスがやってきます。テレビや映画のドラマでは、ラストのハッピーエンドの直前は、大ピンチになると決まっています。そして、そのピンチが大きければ大きいほど、ハラハラドキドキすればするほど、そのドラマは盛り上がります。嫌なことがあったら、「これはいいことが起きる前兆だ」と思える人でありたいと思うし、今の状況も必ずいいことが来ると信じて頑張りたいなと思います。





